

サービス・エージェント(以下 SA)を使用した PPP 接続の PM for System i(PM iSeries, PM/400e) セットアップおよびチェック項目です。

セットアップ * SA の導入前でも、SA の導入後でも可

コマンド CFGPM400 と打鍵・実行キーを押します。SA(=PPP 接続)を使用して送信しますので、パラメーター「IBM へのパフォーマンス・データの送信(=SNA 接続)」は*NO に変更します。

```
IBM へのパフォーマンス・データの送信 . *NO
パフォーマンス・データの受信 . . . . . *NO
パフォーマンス・データ・ライブラリー . . . . . QMPGDATA
```

お客様情報を入力後、導入完了のメッセージが表示されればセットアップ完了です。

```
構成は正常に完了しました。
追加のカスタマイズには、 PM/400 メニューに進んでください
```

回線 Q1PLIN・制御装置 Q1PCTL・装置 Q1PDEV が存在する場合、削除しても結構です。SA 導入後は、回線 QYSDPPLIN あるいは QESPPLIN のいずれかを使用してデータ送信を行ないます。また、接続電話番号も SA 側で設定するため、作業不要です。

チェック項目

確認 1. QSYSWRK 配下の CRTPFRTA, QYSPFRCOL, Q1PSCH の 3 つのジョブが稼動

確認方法: コマンド WRKACTJOB SBS(QSYSWRK)

```
QSYSWRK      QSYS      SBS      .0      DEQW
CRTPFRTA     QSYS      BCH      .0      CMD-CRTPFRTA  DEQW
.
.
QYSPFRCOL    QSYS      BCH      .0      PGM-QYSPFRCOL DEQW
.
.
Q1PSCH       QPM400     BCH      .0      DLY-60        DLYW
```

確認 2. SA のインベントリー送信後、PM for System i 従来のデータ送信 PGM が非活動

SA の送信項目に PM for System i データが含まれるため、PM for System i 従来のデータ送信 PGM が、SA によって非活動状態とされてしまいます。これは正常な動作です。

確認方法: コマンド GO PM400「2. 自動スケジュール済みジョブの処理」のジョブ Q1PCM1

```
名前      状況
Q1PCM1    I
```

* 状況が I(=非活動) になっています

* Q1PSCH が非稼働の場合（主原因）

1. コマンド DSPSBSD QSYSWRK
2. 「3. 自動開始ジョブ項目」を選択し、ジョブ QPM400 があるかどうか確認します。

ジョブ	ジョブ記述	ライブラリー
QPM400	Q1PJOB	QSYS

ジョブ QPM400 がない場合は下記コマンドで追加します。「次回始動(=IPL)後に有効です」のメッセージが表示されれば完了です。

コマンド ADDAJE SBS(QSYSWRK) JOB(QPM400) JOBD(QSYS/Q1PJOB)

* QYPSFRCOL が非稼働の場合（主原因）

ジョブログ中に CPF0A03(特殊権限が必要)が表示された場合、下記コマンドで対処します。

コマンド CALL QSYRESPA X'0000000000000000' (ゼロが 16 個)

* CRTPFRTA が非稼働の場合（主原因）

ジョブログ中に CPF0A03(パフォーマンス・データは上位互換でない)が表示された場合、

1. データ収集ジョブの即時停止

コマンド WRKACTJOB SBS(QSYSWRK)にて QSYSWRK 内の稼働ジョブ一覧が表示されますので、CRTPFRTA と QYPSFRCOL のジョブが稼働中であれば両方とも即時終了します。
オプション 4 入力後、F4 キーを押します。パラメーター「終了方法」の*CNTRLDを*IMMEDに変更して、(他はデフォルトで結構です)実行キーを押します。

2. 変換先ライブラリーの作成

コマンド CRTLIB QMPGDATA1 と打鍵・実行キーを押します。

3. 旧バージョンのデータ変換

コマンド CVTPFRDTA と打鍵・F4 キーを押します。下記パラメーターを入力後、実行キーを押します。

ライブラリー	QMPGDATA
受け入れ(To)ライブラリー	QMPGDATA1
ジョブ記述	* NONE

実行キーを押した後、対話ジョブとしてデータ変換が開始されます。

4. 旧バージョンのデータ・ライブラリー(QMPGDATA)の削除

コマンド DLTLIB QMPGDATA と打鍵・実行キーを押します。

5. 変換先ライブラリー名の変更

コマンド RNMOBJ と打鍵・F4 キーを押します。下記パラメーターを入力後、実行キーを押します。

オブジェクト	QMPGDATA1
ライブラリー	QSYS
オブジェクト・タイプ	*LIB
新しいオブジェクト	QMPGDATA

6. 収集サービスの開始

コマンド GO PM400「2. 自動スケジュール済みジョブの処理」から、ジョブ Q1PPMSUB を選択し、現在の日時に変更します。数分後、CRTPFRTDTA と QYPSPFRCOL のジョブの稼動が確認できれば完了です。